

# 2014年度自己点検・評価報告書(シート)

## 【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

### ＜大学＞

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

### I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	統括部局：学長室	担当部局：学長室・広報室・法人部
大項目	13 危機管理 《全学的な視点》	
中項目		
小項目	13.0.1 危機管理の体制を適切に整備しているか。	
要素		

### II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

#### 《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 大学が管理すべき危機を整理検討し、危機管理を全学的体制でおこなうための基本方針を策定する。	→危機管理基本方針の策定及び公表	B	B	B	B	B
2. 基本方針にもとづいて、全構成員の日常的な危機管理意識を醸成するための研修制度を整備する。	→危機管理のための研修・災害にそなえた訓練への参加人数	C	C	C	C	B
3. 感染症の被害を最小化するための機動的な組織体制を整備する。	→感染症対策のための一元的な組織の設置	B	B	B	B	A
4. 自然災害、特に地震にそなえて建物の整備・点検を行う。	→耐震性または耐震改修された建物の割合(2009年度末までの耐震化率は52.6%、2010年度計画完了後は57.9%、2011年度計画完了後は62.9%：ただし、1981年の新耐震基準以前の耐震改修必要とする上ヶ原キャンパス内の建物(解体予定の建物を除く)に対する、調査・概算の結果、耐震補強が不要な建物及び耐震改修済の建物の割合による。1982年以降の建物は含まない。)	B	B	B	B	B

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

#### 《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 広報会議において、「緊急事態・不祥事の対応」について定めている。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 「緊急事態・不祥事の対応」については定めたが、危機管理基本方針はまだ策定されていない。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 危機管理基本方針を早急に策定し、公表する。	☆
		その他	☆

目標2	B	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 各建物単位で広域の避難訓練を実施した。学生にはホームページで全学生に配付している大学案内「学生生活編」において避難場所を明示している。神戸三田キャンパスの理工学部においては、全研究室の教職員と学生が参加する避難訓練を実施し、安全管理指針に関するパンフレットを配布すると同時に、定期的に安全管理査察も行っている。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 神戸三田キャンパスの理工学部においては、構成員の危機管理意識の向上につながっている。一方、上ヶ原・聖和キャンパスにおいても、同様の危機管理意識の醸成が必要である。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 上ヶ原・聖和キャンパスにおいて、詳細な避難計画を策定し、全構成員への周知に努める。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
目標3	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 麻疹、新型インフルエンザ流行時には、保険館を中心に対策委員会を結成する。また、学校において予防すべき感染症を法律に基づいて明示し、学生への両用、自宅待機等の指示を明示している。さらに、多くの学外者(受験生)が訪れる入学試験時における対策も策定し、実施している。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 新型インフルエンザ流行時においても、学内での感染の広がりを一定程度に抑制できている。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 引き続き、これまでの対策について伸長策・改善策を検討する。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
目標4	B	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 耐震工事の必要な建物については、毎年予算化し、計画通りに工事を実施している。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 耐震性または耐震改修された建物の割合は、91.6%であり、着実に耐震性向上を図っている。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 引き続き、これまでの耐震改修を実施する。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
備考			☆